

令和元年度第2回学校評価アンケートより

令和2年3月吉日
京都市立柊野小学校
校長 長谷川 正

平素は本校教育にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。今年度も「自ら学び考え、心豊かにたくましく未来を拓く子」～未来を夢にもち、未来に向かって生きるこの育成～を学校教育目標とし取組を進めてきています。

本年度の第2回学校評価アンケートを1月に実施しました。このアンケートの結果から、これまでの取組の成果と課題を分析し、今後に向けての取組の改善を図っていきたいと考えています。

内容	対象	項目	実現度			
			よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
①情報共有	保護者	学校は、学校教育目標や学校の方針、取り組みを分かりやすく学校だよりやホームページで伝えている。	28.7%	66.9%	4.1%	0.2%
	教職員	ホームページや学年・学級などで学校の様子を知らせている。	16.7%	55.6%	22.2%	5.6%
	地域	学校だよりやホームページ、学年だよりなどで学校の様子が伝わっている。	44.4%	55.6%	0%	0%
②ルール・きまり	保護者	子どもたちは、地域や学校でルールやきまりを守っている。	30.4%	64.6%	4.8%	0%
	教職員	ルールやきまりを守る大切さを指導している。	50.0%	50.0%	0.0%	0%
	児童	がっこうのきまりをまもっている。	44.4%	48.6%	6.7%	0%
	地域	子どもたちは、地域や学校でルールやきまりを守っている。	23.5%	64.7%	11.8%	0%
③家庭学習	保護者	子どもは、家で宿題や家庭学習を進んでしている。	24.0%	52.6%	20.1%	3.2%
	教職員	家庭学習に主体的に取り組めるように、指導している。	11.1%	55.6%	33.3%	0%
	児童	おうちでべんきょうをがんばっている。	54.4%	32.7%	9.9%	3.1%
④学校生活	保護者	学校は、児童一人一人を大切にしている。	25.2%	68.0%	6.3%	0%
	教職員	子どもに声をかけ、困りに寄り添って話を聞いている。	16.7%	72.2%	11.1%	0%
	児童	がっこうはたのしい。	54.5%	32.4%	8.0%	5.1%
⑤学習						
めあて	保護者	子どもは、めあてがはっきりして、授業が分かりやすいと言っている。	20.1%	60.0%	17.4%	2.5%
	教職員	どの子にもわかりやすい授業をしている。	44.4%	55.6%	0.0%	0%
	児童	めあてがはっきりしていて、じゅぎょうがわかりやすい。	48.2%	38.6%	9.8%	3.4%
表現	保護者	子どもは、自分の考えを話したり書いたりすることができている。	17.3%	58.4%	21.4%	3.0%
	教職員	進んで発表できるように指導している。	16.7%	72.2%	11.1%	0%
	児童	じぶんのかんがえをはなしたり、かいたりしている。	44.8%	37.3%	14.5%	3.4%
聞く	教職員	人の話を聞くように指導している。	50.0%	50.0%	0.0%	0%
	児童	ひとのはなしをしっかりきいている。	52.2%	40.3%	6.3%	1.3%
⑥相談・信頼	保護者	子どもは、先生と話しやすい、相談しやすいと言っている。	27.7%	51.1%	15.9%	5.2%
	教職員	子どもに声をかけ、困りに寄り添って話を聞いている。	50.0%	38.9%	11.1%	0%
	児童	せんせいやともだちに、こまつことなどをはなしている。	42.7%	34.2%	15.1%	7.9%
⑦あいさつ	保護者	子どもは、自分から進んであいさつをしている。	22.4%	56.6%	19.9%	1.1%
	教職員	進んであいさつをする大切さを指導している。	33.3%	50.0%	16.7%	0%
	児童	じぶんからすすんであいさつしている。	47.4%	39.1%	10.1%	3.4%
	地域	子どもたちは、近所の人に進んであいさつしている。	22.2%	38.9%	38.9%	0%
⑧読書	保護者	家で本を読むことが大切だということを、子どもに声をかけている。	24.3%	48.3%	23.6%	3.9%
	教職員	読書の大切さを指導している。	11.1%	44.4%	38.9%	5.6%
	児童	おうちで、まいにちどくしょをしている。	23.7%	30.6%	25.0%	20.8%
⑨学習準備	保護者	次の日の準備をしっかりするように子どもに声をかけている。	42.1%	47.4%	9.6%	0.9%
	教職員	週予定など学習の見通しがもてるように指導している。	44.4%	44.4%	5.6%	6%
	児童	おうちで、つぎのひのじゅんびをしている。	78.9%	13.9%	4.7%	2.5%

⑩健康	保護者	早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についている。	36.1%	47.2%	15.4%	1.4%
	教職員	基本的な生活習慣を身のつけ、手洗いうがいなどなど健康に気をつける大さを指導している。	27.8%	61.1%	11.1%	0%
	児童	てあらい、うがいなどけんこうにきをつけている。	50.1%	36.4%	10.5%	3.1%

⑪安全	保護者	危険な場所などについて子どもと話をしている。	37.8%	52.4%	9.1%	0.7%
	教職員	危険を予測したり、安全に行動したりすることを指導している。	38.9%	61.1%	0.0%	0%
	児童	あんぜんにきをつけてあそんだり、とうげこうしたりしている。	73.3%	21.6%	4.1%	1%

★アンケートの傾向から

児童・保護者の方々・地域の方々・教職員にアンケートを実施しました。それぞれの立場で実施しました。上の表はその回答を百分率で示しています。数値を分析した結果、現状として特に気になった内容等について報告します。

①情報共有について

保護者・地域共に95%以上が実現できていると評価しています。教職員は前回と比較し、約10%程度が実現できていると評価しています。授業や行事の様子をホームページの更新等で各家庭へ伝えることができたと考えます。今後も、ホームページやおたよりだけでなく、家庭訪問等で普段の児童の様子や学校の取組を伝えしていく必要があります。

②ルールやきまりについて

保護者や地域の実現度もルールやきまりを守っていないという評価の割合が前回と比べて高くなっています。ルールやきまりの意味や大切さを学校・家庭・地域で児童に働きかける必要があります。また、ルールやきまりを守っている児童をお手本にして、そのよさを広めていく取組が必要だと考えています。

③家庭学習について

約13%の児童が実現できていないと評価しています。家庭学習では学校で学んだ内容を、再度確認したり、練習したりする学習です。自分で学習する習慣をつけておくことが更なる成長につながります。児童が意欲的になるような家庭学習の内容を、家庭で考えていく必要があります。また、家庭学習している頑張りを評価していくことも大切です。学校では家庭学習の大切さを指導していきたいと考えています。

④学校生活について

「学校が楽しい」と評価していない児童が約13%います。原因として考えられるのは、学習や人間関係に対する不安や学習に対する課題等が考えられます。学校は、普段の子どもたちの様子をつぶさに見守り、適切な声かけや指導と評価をしていかなければなりません。また、がんばったことを評価し自信をもって取り組むことができるようにしていきたいと考えています。家庭では、子どもと向き合う時間を確保していただき、子どもの様子や気持ちを握り寄り添っていくことが大切だと考えます。

⑥相談・信頼について

④の項目と関連が深いと思われる結果です。自分の困ったことを、先生や友達に相談することに不安をもっている児童が約24%いるということです。教職員が自分から表現することが苦手な児童に対して、寄り添って話を聞く姿勢をもち続けていくことが必要だと考えます。また、普段の学校生活で、児童と会話する機会を多くして、児童の困りをキャッチするようにしていくことが必要です。

⑦あいさつについて

児童の様子を毎日見ていますと、あいさつはできるのですが、「じぶんからすすんで」ということができていない印象があります。特に地域の方からの評価が低いです。児童会から発信している「あいさつ運動」の取組のように、自分たちから働きかけることをふやしていきたいです。これからは、地域の方々や自分に関わって頂いているすべての方々に感謝を伝えることが大切だと考えます。

⑩健康について

「早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身についていない」と評価している保護者の割合が約13%でした。1日のスタートである朝を元気に始めるためには、早く就寝し十分な睡眠をとる必要があります。睡眠時間と学力は密接に関係しているといわれています。親子そろって、早寝・早起きから始めてみてはいかがでしょうか。

★今後に向けて

2月5日(水)に開催した第3回学校運営協議会では、このアンケート結果を地域の方々や保護者の方々と共に話し合う機会を設けました。そこでは、アンケートの傾向が、前回と比較しほぼ同じ結果がでているということを、「課題が解決していない」と考えるのか、「よく頑張っている」と考えるのかという議論をしました。児童が頑張っている内容については、大いに評価し、改善しきれていないところは、今後の課題として継続的に指導をしていくという結論になりました。日々の児童の様子を教職員がしっかりと把握し、適切な指導をしてくこと。また、自分からあいさつができない児童の割合は、高学年になるのつれ高くなっていくことが課題であり、大人から積極的にあいさつをしていくことで、あいさつの大切さが伝わるのではないかという意見がありました。児童の様子を家庭・学校・地域で温かく、そして時には厳しい目で見守っていきたいと思います。このアンケート結果を来年度につながるようにしていきたいです。